

(講座) 感染分子病態学      (研究室) 感染分子薬学  
(氏名) 渡辺 健              (職名) 助教

### 【研究テーマ】

1. インフルエンザウイルスマトリックス蛋白質結合宿主因子 Hsc70 の機能解析
2. 質量分析計を用いたウイルス蛋白質解析に関する研究

### 【論文発表】

#### A 欧文

##### (A-a) 原著論文

1. Naoki Takizawa, Ken Watanabe, Kaoru Nouno, Nobuyuki Kobayashi, Kyosuke Nagata. Association of functional influenza viral proteins and RNAs with nuclear chromatin and sub-chromatin structure. *Microbes and Infection*. 2006; 8, 823-33. (IF=3.154)
2. Takayuki Fuse, Ken Watanabe, Kaio Kitazato and Nobuyuki Kobayashi. Establishment of a new cell line, which inducibly expresses human immunodeficiency virus type I protease to perform safe and highly sensitive screening of HIV protease inhibitors. *Microbes and Infection*. 2006;7,1783-9 (IF=3.154)
3. Watanabe K, Takayuki F, Asano I, Tsukahara F, Maru Y, Nagata K, Kitazato K and Kobayashi N. Identification of Hsc70 as an influenza virus matrix protein (M1) binding factor involved in the virus life cycle. *FEBS Letters*. 2006; 580, 5785-5790 (IF=3.415)

### 【学会発表】

#### B 国内学会

##### (B-b) 一般講演

1. 北里海雄、齋藤誠、渡辺健、小林信之：ヒト細胞における MIP-T3 のタンパク質レベルの発現および挙動解析 平成 18 年度日本生化学会九州支部例会 2006 年 5 月 福岡 【口頭発表】
2. 渡辺健、布施隆行、塚原富士子、丸義朗、永田恭介、北里海雄、小林信之：Hsc70 の機能解析：インフルエンザウイルス (IFV) マトリックス蛋白質 (M1) 結合因子としてのウイルス生活環での役割 平成 18 年度日本生化学会九州支部例会 2006 年 5 月 福岡 【口頭発表】
3. 渡辺健、布施隆行、浅野郁星、塚原富士子、丸義朗、永田恭介、北里海雄、小林信之：Hsc70 発現抑制によるインフルエンザウイルス増殖の制御 第 43 回日本ウイルス学会九州支部会 2006 年 9 月 久留米 【口頭発表】
4. 渡辺健、布施隆行、浅野郁星、永田恭介、北里海雄、小林信之：Hsc70 発現抑制によ

るインフルエンザウイルス増殖制御の基礎検討 第54回 日本ウイルス学会学術集会  
2006年11月 名古屋【口頭発表】

**【研究費取得状況】**

1. 平成19年度 科学研究費若手(B) 研究代表者 インフルエンザウイルス増殖に  
関与する宿主因子 Hsc70 の機能解析

**【過去の研究業績総計】**

原著論文 (欧文)	12 編		
総説 (欧文)	1 編		
著書 (欧文)	1 編	(邦文)	2 編